

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和7年12月4日(木)
文責: 情野 夏美

山形市立第四小学校に行ってきました!

山形市立第四小学校の公開研究会に参加してきました。5年算数の単元内自由進度学習の参観と以前回覧させていただいた本の著者で、上智大学教授、次期学習指導要領の改訂に関わっている奈須先生の講演を聞いていてきました。その内容を報告させていただきます。字のみで申し訳ないですが、最後までお読みいただけますと幸いです。

研究主題

つながりの中で学ぶ、しなやかな子ども
一深い子ども理解を土台にした『教師の待ちと出』を探る

テーマ

一人一人が自立し、夢中になって学ぶ子ども

1. 授業の内容

- ・5年算数「四角形と三角形の面積の求め方を考えよう」
- ・全8時間の単元内自由進度学習
- ・スマイルタイムの名で行う
スマイルタイムとは・・・自分で学習の計画を立てて進める時間。一人一人自分のペースでじっくりと学習を進めることができる。(児童に示しているもの)
- ・ピタゴラスコースとオイラーコースが選べる。それぞれのコースの中でも学習内容を選ぶことができる。途中で先生チェックがある。
- ・導入時に学習計画を見て、今日やることを確認する。
- ・自分の好きな場所、好きな人と学習を行う。
- ・先生は、座って、先生チェックに来た子の丸つけを行う。

2. 授業を参観して感じたこと

- ・プリントで学習を行っていました。何人の先生と試行錯誤を重ねて作ったワークシートだそうです。内容が精選されており、ヒントも散りばめられたものになっていました。しかし、プリントの作成にはかなり時間がかかったそうです。私が行ったマイペース学習では、ロイロノートで学習を進め、ノートに書いてもらっていました。そのロイロノートの教材づくりは確かに時間がかかりました。先日の松川さんでもプリントだったことから、紙がいいのか、ICTがいいのか悩みどころです。
- ・教室と隣の教室を使用していました。椅子に座って行う子、靴を脱いで座って行う子など様々でした。場所があれば、学びやすい空間を作ることは大事だなと思います。授業された先生によると、場の設定が難しかったそうです。場所のレイアウトは、回覧する指導案についているのでご覧ください。
- ・ワークシートの答えがすべて書かれているコーナーがあり、正解を確認しながら進めることができるよさがあると思いました。
- ・掲示物が分かりやすかったです。3年生や4年生の既習事項を確認するものもありました。ただ、教室の後ろに掲示されていたので、見えにくかったとの声がありました。掲示する場所も重要であるとのことでした。

- eboard (イーボード) というアプリを使って、子どもたちは解説動画を見ながら学習を進めていました。調べてみたところ、誰でも見ることができるようでした。算数、理科、社会、漢字がありました。
- QR コード「Server」を使って、タブレット上で図形を操作していました。教室に掲示されており、いつでも使うことができるようになっていました。
- 同じ東京書籍の教科書を使用していましたが、教材研究は、他社の教科書を見比べてされたそうです。同じ問題でも発問やアプローチの仕方が変わってくるので、採択されている教科書だけで指導するのはもったいないと奈須先生が講演の中で話されていました。
- 終わった子は、チャレンジ学習を行っていました。面積の求め方を書き、動画を撮っていました。その他にも、難しい問題を用意しているなど、終わった子も学びを止めないような工夫がなされていました。
- ふり返りは、蓄積型でした。単元のめあてや今日の進度を書く欄もありました。このプリントを見ただけで、学習の内容が分かるなど感じました。
- 授業終わりには、「もう終わり?」という声が聞こえました。いかに没頭していたかが分かります。

3. 奈須先生の講演内容

- 指導案や授業は、本時で考えるのではなく単元で考える。内容に系統性を持たせることが大事。
- 既習を未習へどう生かすかが大事。
- みんなが同じようにできるようになるとは思わないこと。取り残すということではなく、学びの豊かさを担保しておく。
- 自由にさせつつも、ガードレールを作ることも重要。そのためには、指導内容を十分に研究することが必要。
- 個別最適は、長い目で見る。学期単位など。知識を教え込むという意識ではなく、幸せになるために教えるという意識を持つ。
- 自由進度学習では、本来一斉学習で先生が説明すべき分を情報として与えないといけない。
- 自分で学びを進めていくためには、十分な環境、十分な教材が必要。（今回の5年生の授業では、十分な準備がされていると感じましたが、まだまだ準備が必要であるとのことでした。驚きです。）
- 幼児教育から空間配置を学ぶ。
- 教師の出→子どもが見通しを持ち、めあてを持って学習を進めているときは、余計な声掛けはせず、学びを止めないことが大事。
- 不登校について

対人関係ではない不登校が増えている→授業がつまらない、わからない

難しい、簡単と感じている子同じくらいいる。

先生の教え方が悪いわけではなく、子どもの多様性が拡大していることが原因。

大抵の子は、授業改善（分かる！楽しい！授業）で戻ってくる。

天童中部小は全校生700人いるが、不登校0人（個人総合が効いている。）

朝の会の健康観察が大事

→しっかり顔を見る、今日楽しみなことを一言言わせて、話を広げる。

→学校に来たいと思わせる。